



## 大分県日田市 (株)グリーン発電大分

### — 地域の活性化を担う木質バイオマス発電 —

#### 課題

林業従事者の高齢化や原木価格の低迷から、利用期を迎えた人工林資材が十分に利用されず、山林の適切な管理が問題化。

#### 発電

林業従事者とともに、森林の持続的な再生の仕組みづくりを目指すため、山林未利用材を燃料とする発電所を建設。

#### 効果

山林未利用材が価値を持ったことで、山林の維持管理、林業従事者の所得向上に貢献する他、林業・流通・発電関係等に地元雇用を創出。

#### 更なる 挑戦

温排水を園芸施設に供給して低炭素型農業の実現に貢献する他、地域新電力会社を設立し、市内の38公共施設に電力を供給。

設 備 概 要

- 発電種類 : 木質バイオマス発電
  - 発電出力 : 5,700kW
  - 発電量 : 約4,500万kWh/年
  - 燃料 : 山林未利用材 (約7万トン/年)
  - 運転開始 : 2013年11月
- ※ 農山漁村再生可能エネルギー法に基づく認定設備

事業概要 (経過)

2013年11月

山林未利用材チップを燃料とした、木質バイオマス発電事業を開始。事業開始当初より、地元小中学校の環境教育の受け入れを実施。

2016年07月

農山漁村再エネ法に基づく基本計画を策定した日田市から、設備整備計画の認定を受けたことで、「地域資源バイオマス発電設備」の証明を得て安定稼働を実現。

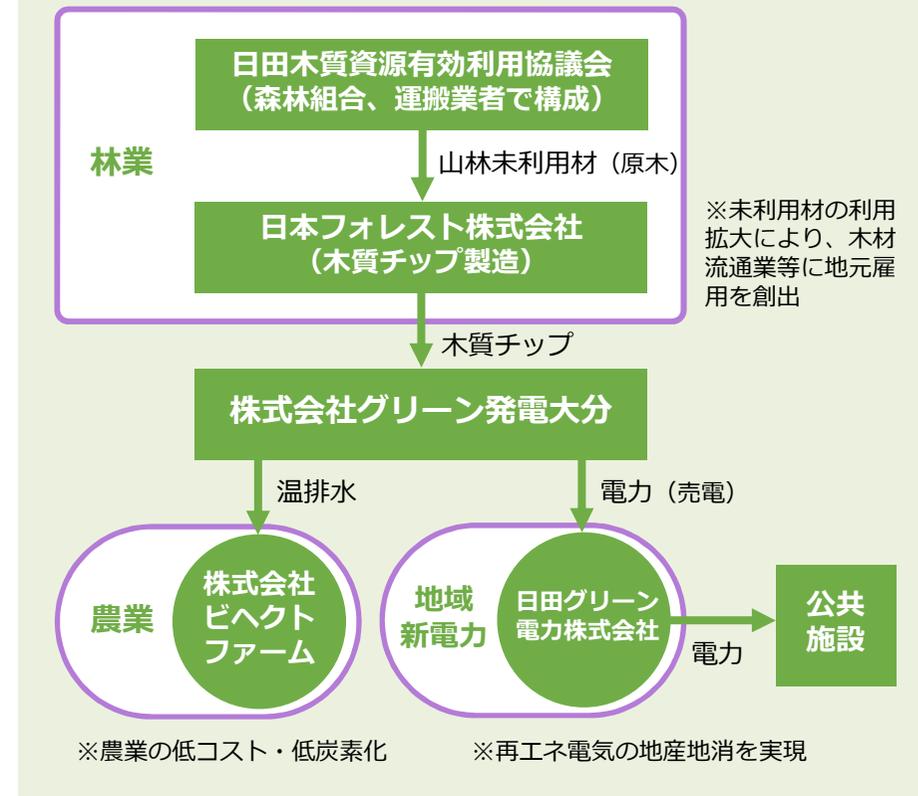
2016年11月

発電所敷地内に建設された園芸施設 (イチゴ栽培) に、温排水の供給を開始。温排水の使用料は、農業の活性化に貢献するため1日当たり1円に設定。

2017年09月

新たに設立した地域新電力会社「日田グリーン電力株式会社」を通じ、市役所や小中学校を始めとする市内38公共施設に電力の供給を開始。

事業スキーム



今後の展開

地域密着型の木質バイオマス発電事業によって、エネルギーの地産地消、子供たちの環境教育、林業の持続的かつ健全な発展、低炭素社会の実現、関連産業の創出や雇用拡大を実現。

今後は、発電燃料としての早生樹の可能性や、発電の副産物である焼却灰の活用方法を研究し、木質バイオマス発電事業の更なる可能性を追求していく。